

5の3 社会科学学習指導案

6 / 13 (月) 2限

5の3教室 西 勝也

1 単元名 米作りのさかんな地域

2 単元のねらい

我が国の米作りの様子に関心を持ち、米作りが国民の食生活を支えていること、米の生産量や生産地の分布、土地利用の特色、米作りの従事している人々の工夫や努力、生産地と消費地を結ぶ運輸の働きを理解し、現在の問題点や今後に向けての取り組みなどについて考えることができる。

3 単元でめざす学ぶ楽しさ

石川県の米作りについて 山形県の米作りを参考にしながら 消費者と生産者の視点から米作りの工夫にせまり 石川県の米作りのこれからについて考えていく楽しさ

子どもが毎日食べているお米。そのお米は我が国の主食であり、国民の食生活を支えている大切な農作物である。子どもたちにすれば、お米はスーパーで買っているか、祖父母が作っている米をもらっているかどちらかであり、農家の家はない。そのことから消費者の視点はもっているが、生産者の視点については考えたことがないだろう。石川県は米作りがさかんな県であり、「すし」と「もち米」の消費量が全国1位であることからそれを裏付けることができる。その石川県の米作りの実態を調べていくことは、米作りについて身近に感じるため学ぶ楽しさをもって学習できる教材である。

本単元では、いつも食べている米の消費量の減少、生産量の減少から米作りの問題点を推論し考えながら、生産地の分布、土地利用の特色、生産者の工夫や努力などについて追究していく。『いしかわの農業』で石川県の米作りについて教科書の山形県の米作りを参考にしながら探究していく。単元の終末には、石川県の農業の問題点、今後に向けての取り組みなどについて多様な考えを交流させて、単元途中の思考過程を見える化し「米作りイメージグラフ」で単元のはじめと終末での自己の変容を表現させる。

4 単元計画（総時数 11 時間）

主な活動と内容	学ぶ楽しさを味わうための手だて
1 消費者の視点で考える。（3 時間） ○主な食料の生産量と消費量の変化を読み取る。 ・米は主食である。 ○米は全国各地で作られていることがわかる。 ・特に北海道・東北地方に多い。 ○石川県の米作りについて考える。（本時） ・石川県ででも米作りに適している。	(1)考えたくなるような事象と出合わせ、「問い」を明確に持たせる 米の消費量・生産量の減少、北の地方の生産量が多いのに、石川県産の米を食べていることから「問い」を作り、石川県の生産者の方へ視点をシフトしていく。
2 生産者の視点で米作りについて調べる。（4 時間） ○米作りの1 年を調べる。 ○圃場整備と機械化について調べる。 ○品種改良について調べる。 ○安全で安心な米作りについて調べる。	(2)多様な考えの交流をさせる 生産者の工夫や努力を調べ、そのことから米作りのイメージがどのようなものかを根拠となる資料を明確にしながら交流させる。
3 米作りの問題点と今後について考える。（4 時間） ○米作りの問題点について調べる。 ○米作りの将来は明るいかどうかを話し合う。 ○米作りの今後について自分の考えをまとめる。	(3)思考過程を振り返り、自己の変容に気付かせる 書き溜めてきた「米作りイメージグラフ」から自己の変容に気づく。

5 本時の学習（第1次中3時）

(1) 本時のねらい

石川の米作りも、庄内平野と同じように広い土地、水、気候の条件で米作りがさかんであることがわかる資料を予想し、見つけることができる。

(2) 本時における学ぶ楽しさ

「問い」を解決するために、あったらいいなと思う資料を考え、その資料を探して、自分の予想に満足感を持たせる楽しさ

(3) 展開

時	学習活動と子どもの姿	学ぶ楽しさを味わうための手だて
5	1. 前時をふり返し、課題をつかむ - 米は全国各地で作られていて、北海道や東北地方で多く作られている。 - 広い土地、水、日照時間の条件がそろうとよくとれる。 ○みんなの食べているお米は東北地方のもの？ - 自分たちは、石川県産の米を食べている。 ＜ 石川県は米作りに適しているといえるか ＞	(1)考えたくなるような事象と出合わせ、「問い」を明確に持たせる 「問い」を持たせるために、持ってきている米袋から、東北米を食べている家庭がないという事実を示し、気づいた「問い」を出させる。
10	2. 予想し、その予想に対してどのような資料があるとよいのかを考える。 ○予想して、そう思う、思わないにネームプレートを張りましょう。 - 石川県の土地利用図があるとわかるな。 - 大きな川があるってわかる地図か写真があるといいな。 - 月別日照時間がわかるものがあるといいな。	
20	3. 『いしかわの農業』から資料を探す。 - 土地利用図から金沢平野と邑知潟のところに水田が多いことがわかります。 - 石川の耕地利用の割合は水田が約84%の割合を占めているから適していると思います。 - 写真から広い土地で作られていることがわかります。	
10	4. これからの米作りは明るいかどうかを今までの学習からふりかえる。 ○米作りイメージグラフを書きましょう。 - 石川県は米作りがさかんだがら、明るいと思う。 - でも、後継者がいるのかな。 - 農作業は大変だと思うから明るくないかな。	(3)思考過程を振り返り、自己の変容に気付かせる 単元の終末に話し合い、自分の思考の流れを確認するために、「米作りイメージグラフ」にこれからの米作りはどうなっていくのか現段階での考えとその根拠となる資料を明記させる。
石川県も東北地方と同じように、広い土地、水、気候の条件がそろっていて米作りに適した土地だった。予想を裏付ける資料がみつかった。次の時間は生産者の立場でどのように米作りをしているのかを調べていきたい。		